

小学校における教師とスクールカウンセラーの望ましい協働のあり方とは？

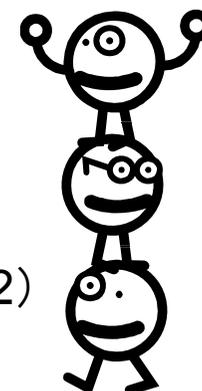
研究リーダー：山本渉（臨床心理学コースD1）

研究メンバー：割澤靖子（臨床心理学コースD2）

須川聡子（臨床心理学コースD2）

曾山いづみ（臨床心理学コースM2）

指導教員：中釜洋子教授



目次

1. 問題と目的
2. 研究全体の構成と方法
3. 研究1: 文献レビュー
4. 研究2: SCへのインタビュー調査
5. 総合考察

1. 問題と目的

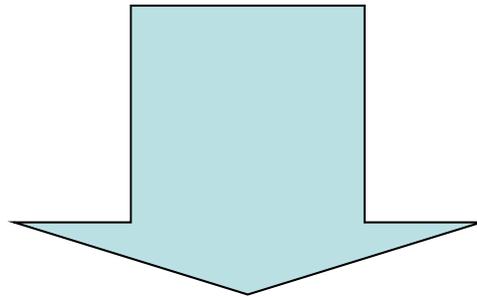
問題意識：学校における臨床的な問題への取り組みと教師とSCの協働

- 学校における臨床的な問題への取り組みは、教師たちの手による長年の蓄積がある。
- 一方で、1990年代にスクールカウンセラー（以下、SC）の配置が始まったことで、現在学校においては、教師とSCが協働してこうした問題に取り組むことが期待されている。

とこゝろで

問題意識：小学校への配置の本格化

これまで：SC配置は公立中学校が中心



2008年度以降：小学校への配置も本格化

しかし

問題意識：中学校とは異なる 「小学校」という場への関心

- 中学校と小学校とでは、教師とSCの協働のあり方も異なることが予想される。

そこので

本研究の目的

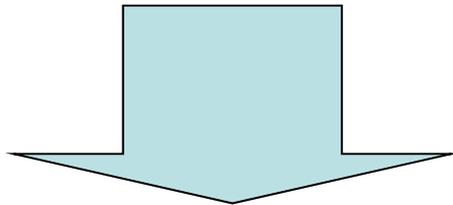
- 今後SCが本格導入される小学校における教師とSCの望ましい協働のあり方を検討するための基礎資料を提供することを、研究全体の目的とする。

2. 研究全体の 構成と方法

研究全体の構成と方法

研究1: 文献レビュー

⇒ 小学校における教師とSCの協働のあり方の特徴を大まかに把握する。



研究2: SCへのインタビュー調査

⇒ 文献研究だけでは捉え切れない、教師とSCの協働のあり方の現状を把握する。

3. 研究1: 文献レビュー



研究1: 目的・方法

- 目的
小学校における教師とSCの協働の特徴を大まかに把握すること
- 方法
文献レビュー
- 対象文献
文献検索サイトCiNiiにて「小学校」「スクールカウンセラー」のキーワード検索でヒットした文献のうち、本研究に関係があると判断された47文献

研究1の分析の方針

- なお、レビューの際には、「小学校における教師とSCの協働」を中心テーマに据えた先行研究がまだ十分でないことを踏まえ、まずは「小学校におけるSC活動」に関する文献を対象とすることで、「小学校における教師とSCの協働」へのヒントを得ることにした。

研究1: 分析の流れ

文献検索サイトCiNiiで文献を抽出

分析1

小学校におけるSC活動に関する研究動向の把握

似た文献をグルーピングし、「研究カテゴリー」を生成。

研究カテゴリーごとの研究数の推移を調べることで、この領域の大まかな研究動向を把握。

分析2

小学校におけるSC活動の特徴に関する知見の整理

小学校におけるSC活動の特徴について言及している記述を、文献の中から抜き出す。

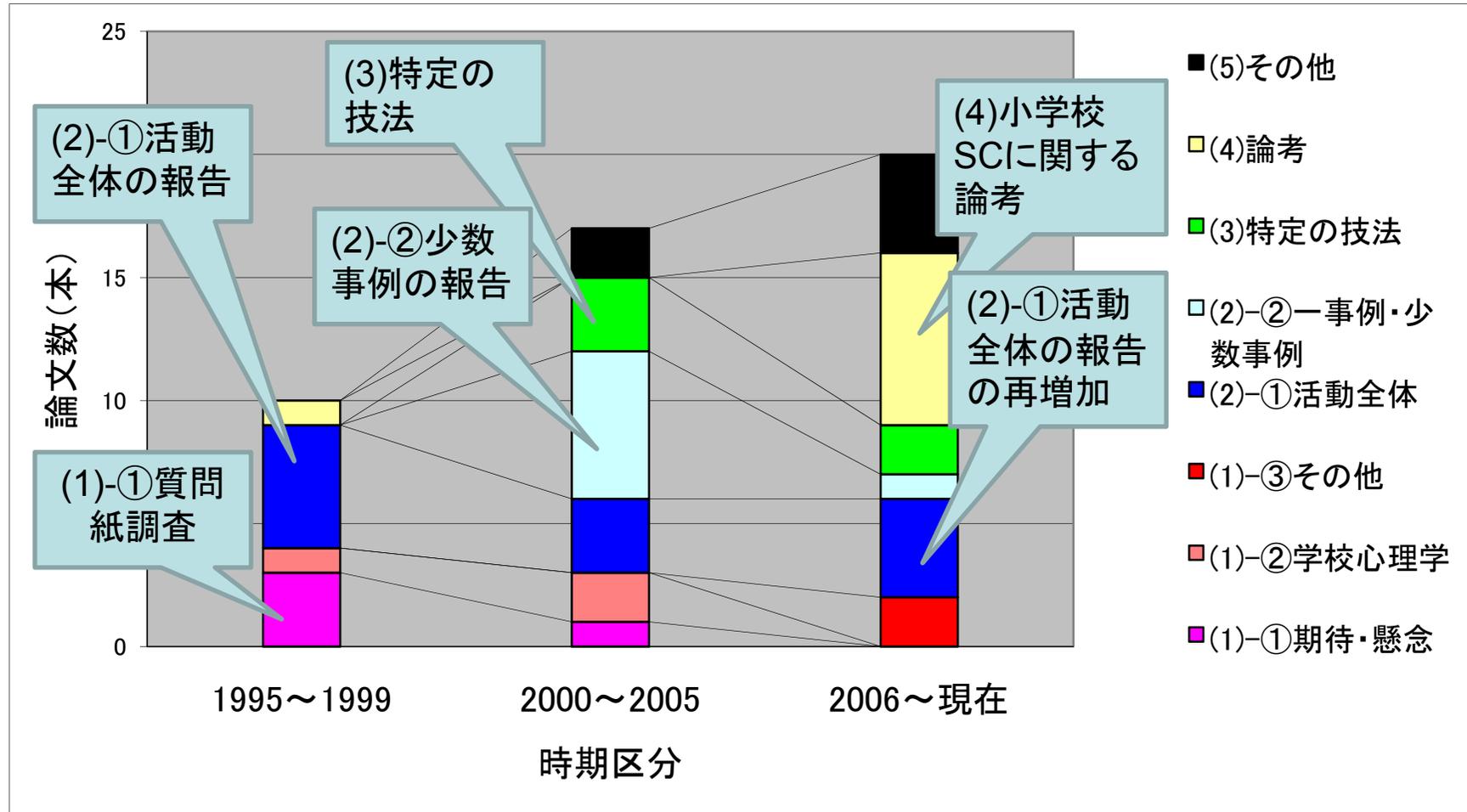
似た記述をグルーピングし、カテゴリーを生成。

[分析1]: 小学校におけるSC活動に関する研究動向の把握

研究カテゴリーの生成

大カテゴリー	小カテゴリー
(1)質問紙調査	①この事業に対する期待・懸念など
	②学校心理学の観点から、SC活動への示唆を得ようとしたもの
	③その他
(2)事例研究・活動報告	①活動全体
	②一事例または少数事例
(3)特定の技法をSC活動に応用したもの	
(4)小学校におけるSC活動について理論的な考察を加えた論考	
(5)その他	

研究カテゴリーごとの研究数の推移



(報告書p131~132のFigure3.1・Table3.2にも掲載)

[分析2] 小学校におけるSC活動 の特徴に関する知見の整理

[分析2]の概要

- 小学校におけるSC活動の特徴について言及している記述を、先程の47文献の中から抜き出し、KJ法を参考に分類・整理した。
- 結果、8つの分類を得た。

分析2で得られた8つの分類

①多様な発達課題への理解と対応

②発達障害への理解と対応

③学級担任を支えることがより重要

④保護者の協力を得ることがより重要

⑤教師に近い立場／同じ場で関わる

⑥子どもの相談を担当につなぐ

⑦自発来談が少ない中での動き方を考えることがより必要

⑧表面には表れないニーズを読み取ることがより必要

→これらは、「小学校におけるSC活動の特徴」として抽出したが、「小学校SCに求められるもの」と理解しても差支えないだろう。

[分析2]の考察

- 小学校SCに求められるものが明らかとなったことで、なぜ小学校において「教師とSCの協働」が重要なのかを示唆された。

[分析2]から分かること(1)

【③学級担任を支えることがより重要】

+

【⑥子どもの相談を担当につなぐ】

→(1)小学校では、担任教師との関係作りが重要である可能性がある。

=つまり「教師とSCの協働」が重要！

[分析2]から分かること(2)

【⑤教師に近い立場／同じ場で関わる】

+

【⑦自発来談が少ない中での動き方を考える
ことがより必要】

→(2) 小学校では、SCも、面接室以外で子ども
と関わるが多くなる可能性がある。

「(2) 小学校では、SCも、面接室以外で子どもと関わるが多くなる」と、どうして教師との協働が重要になるのか？



- SCが面接室以外で子どもと関わる



- 教師とSCとの間で活動内容を共有し易い。
- 教師とSCとの役割分担が曖昧になり易い。



- 教師との関係をどのように取っていくのかが重要になる。



つまり「教師とSCの協働」が重要！

研究1のまとめと研究2への示唆

- 小学校SCには、担任教師との関係作りの重視や面接室にとどまらない関わりが求められる。



- 中学校と同様、もしくはそれ以上に「教師との協働」が重要である可能性がある。



- しかし、具体的にどのように教師とSCが協働すれば良いのかまでは、窺い知ることが出来なかった。

⇒研究2への課題！

4.研究2:SCへのインタビュー調査



研究2: 目的

大きな目的

- 文献研究では捉え切れない、教師とSCの協働のあり方の現状を分析する。



リサーチクエスチョン

- SCは小学校の教職員との協働関係をどのように構築しているのか？

研究2:方法

- 調査方法:半構造化面接法
- 調査協力者:現在小学校に勤務している、もしくは過去に小学校に勤務していたSCの中で、研究に同意したSC。
- 分析方法:グラウンデッド・セオリー・アプローチ (Strauss & Corbin, 1998)

研究2: インフォーマント(調査協力者)一覧

Info.	呼び名	年齢	性別	小学校SC勤務 年数	中学校SC 経験	その他臨床経験
1	Aさん	35	女	3年目	○	児童養護施設 学生相談所 など
2	Bさん	32	男	3年目	○	児童養護施設 精神科デイケア など
3	Cさん	33	女	4年目	○	民間カウンセリングセ ンター、企業EAPなど
4	Dさん	49	女	2年目	○	児童相談所 保健所 など
5	Eさん	46	男	2年目	○	子育て支援センター 私立高校SC など
6	Fさん	27	女	2年目	×	乳児院 教育相談所 など

ところで結果に行く前に・・・
本研究ではインタビューを進める
中で、次のような気づきを得た。

インタビューを進める中での気付き

- SCは対象者に応じて異なる協働関係を築いていることが予想された。
- その対象者は以下の3タイプ。



教師



養護教諭



管理職

なお、ここで言う“教師”とは、ほぼ全ての場合
“担任教師”を指していた。

そこで、本研究では、結果の
提示順を次のようにした。

研究2: 結果の提示順

[協働関係の基本枠の生成]
(全対象者との協働関係に共通の特徴)

[分析1] 教師とSCの協働

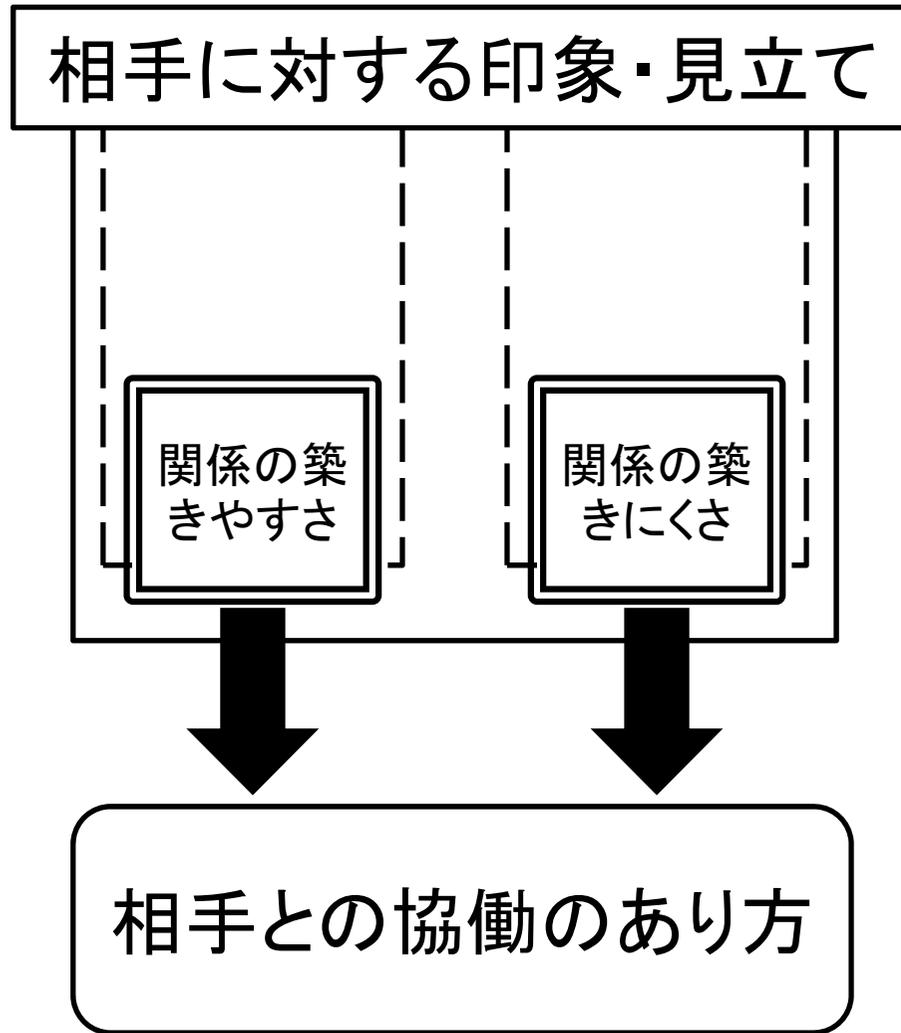
[分析2] 養護教諭とSCの協働

[分析3] 管理職とSCの協働

[分析4] 3タイプのあり方の比較

[協働関係の基本枠の生成]

[協働関係の基本枠の生成]



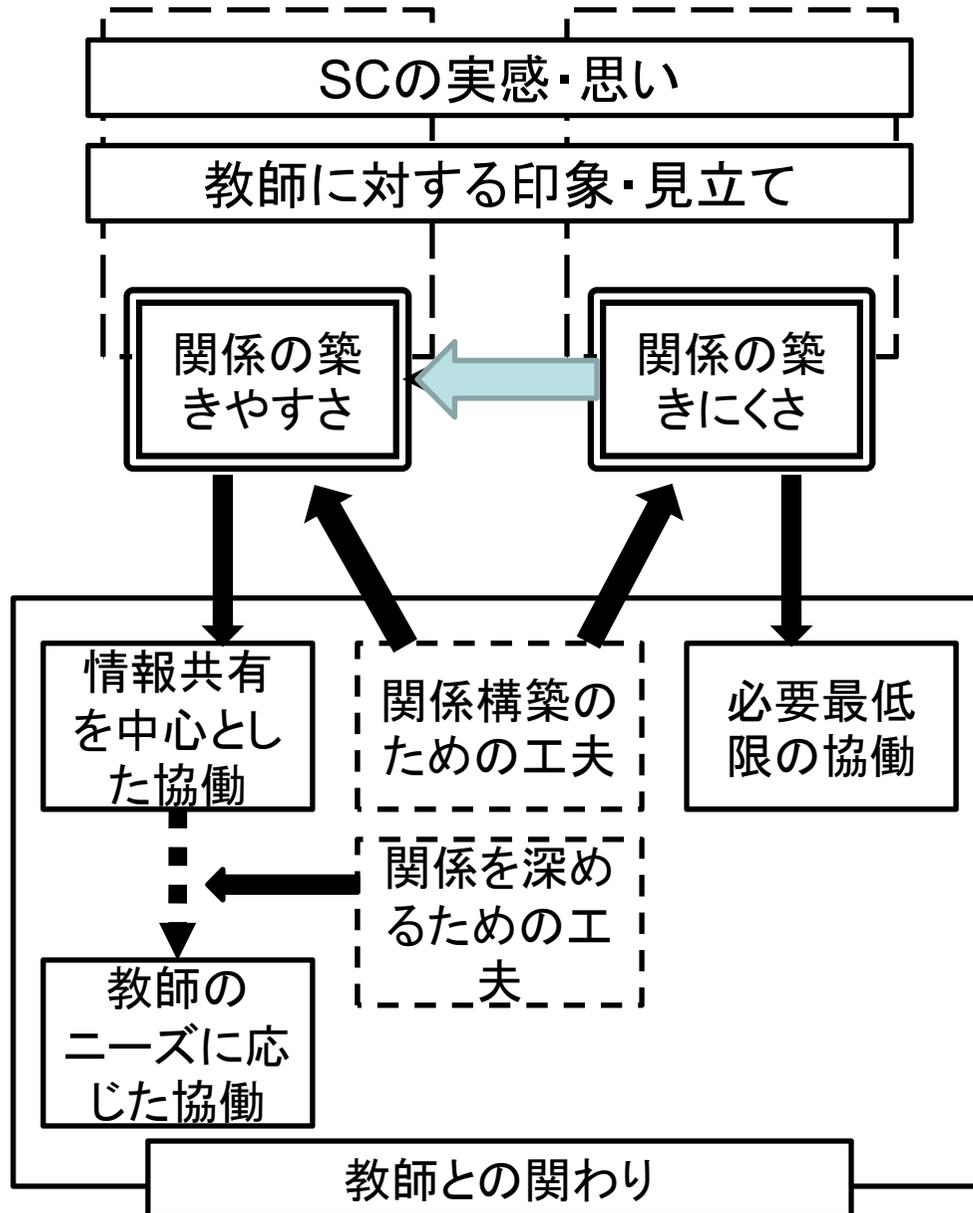
- SCは、各々の教職員との関わりの中で、常に相手に対する【印象・見立て】を形成することで、関係の築きやすさ／築きにくさを区別し、それを基に関係構築を行っている。

[分析1] 教師とSCの協働





[分析1] 教師とSCの協働



- 自然の成り行きに任せて協働関係を構築するのではなく、SCが積極的に教師との関係性に働きかけ、協働関係のあり方を変容させている。

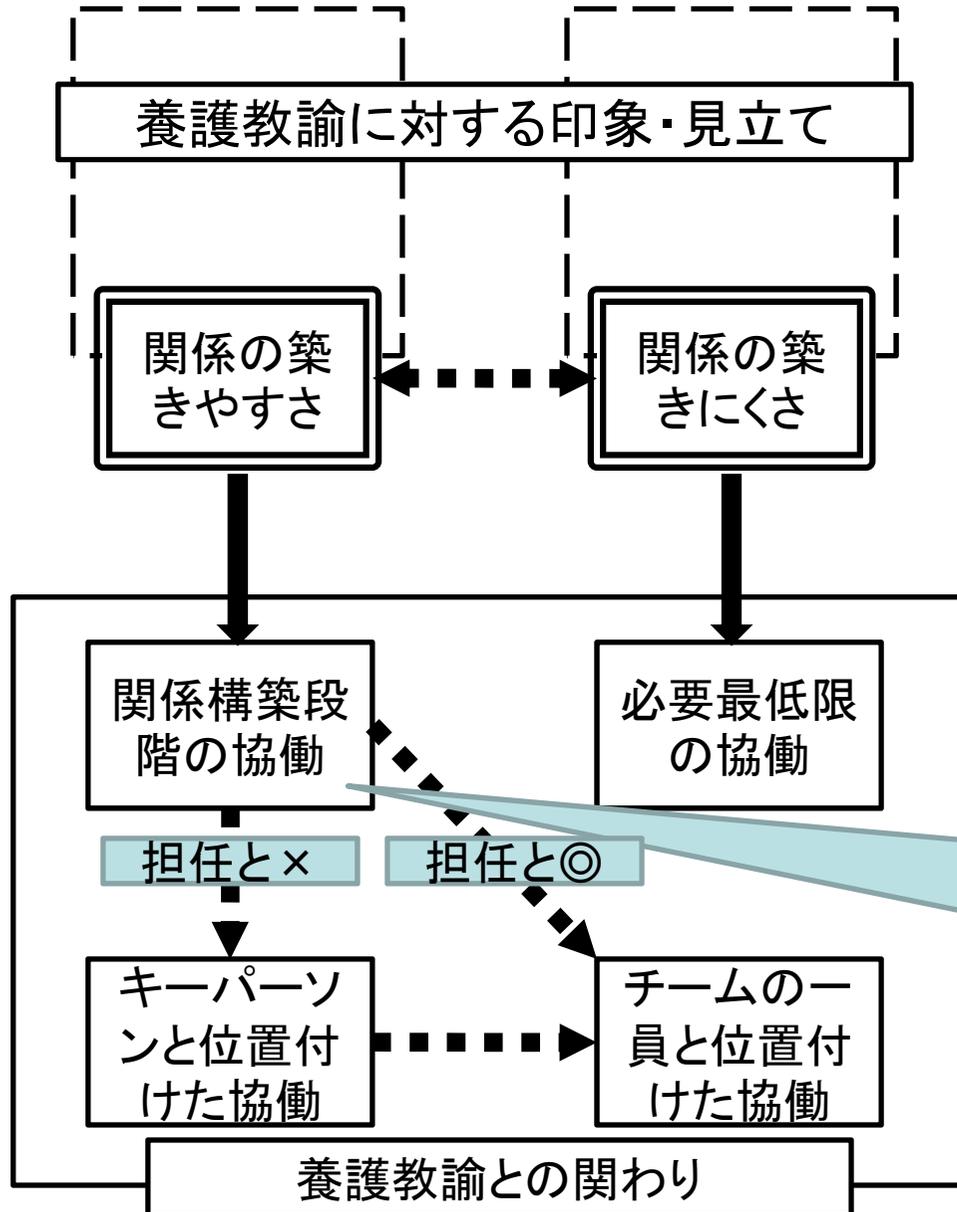
(報告書p159のFigure4.4にも掲載)

[分析2] 養護教諭とSCの協働





[分析2] 養護教諭とSCの協働



- 養護教諭との【関係の築きやすさ／築きにくさ】だけでなく、【SCと担任教師との関係性】という要因によっても協働関係のあり方が規定されている。

【SCと担任教師との関係性】によってその後の変容過程が異なる。

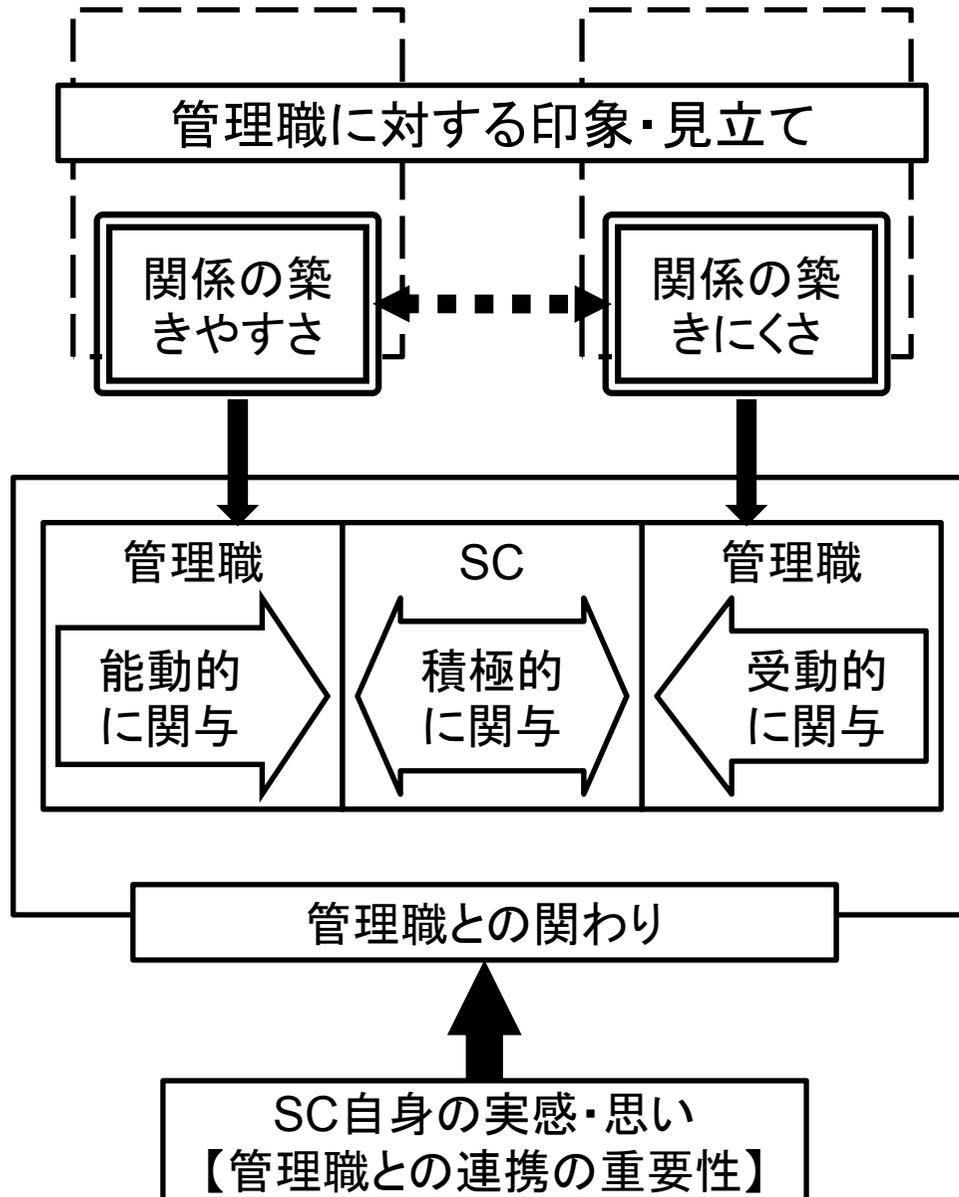
(報告書p159のFigure4.4にも掲載)

[分析3] 管理職とSCの協働





[分析3] 管理職とSCの協働



- 【関係の築きやすさ／築きにくさ】の影響を受けにくく、どのようなタイプの管理職であっても一定の協働関係が構築されやすい

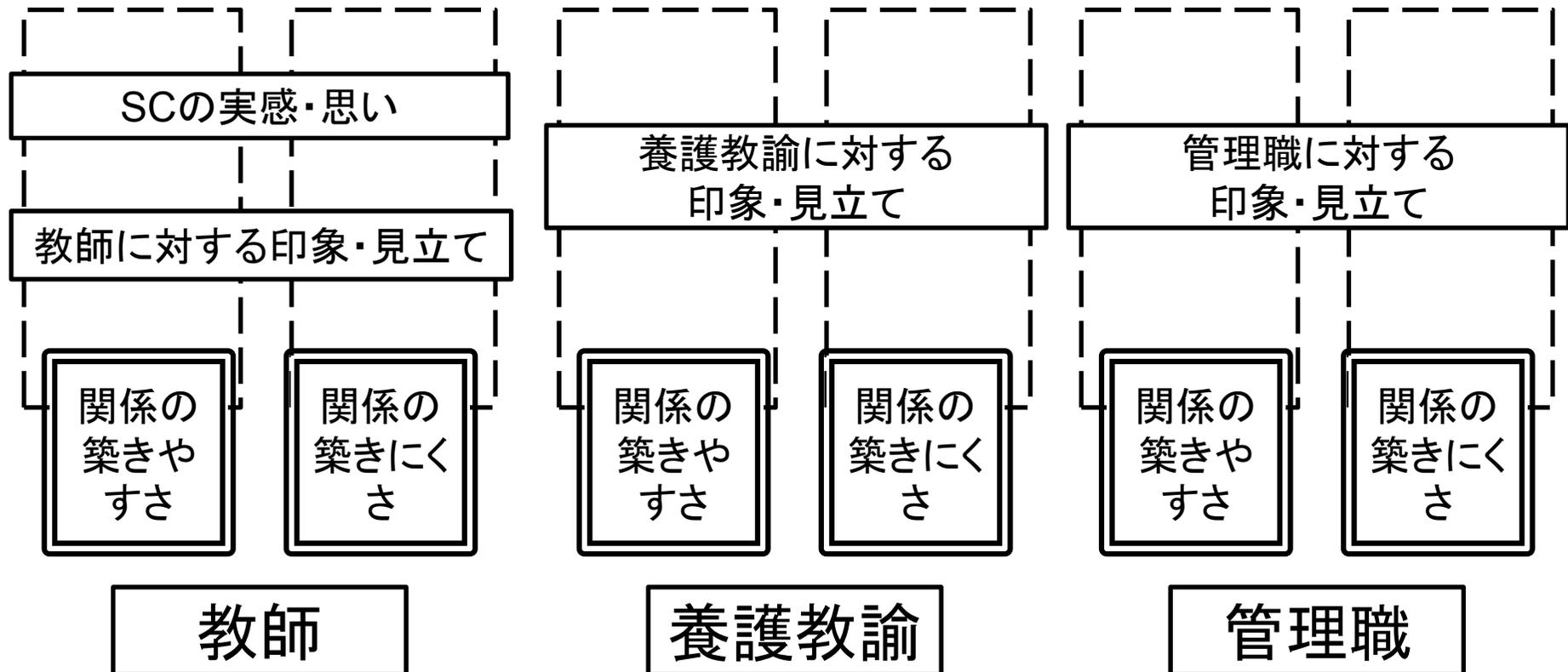
(報告書p159のFigure4.4にも掲載)

[分析4] 3タイプのあり方の比較



(1) 関係の築きやすさ／築きにくさの
判断基準の比較

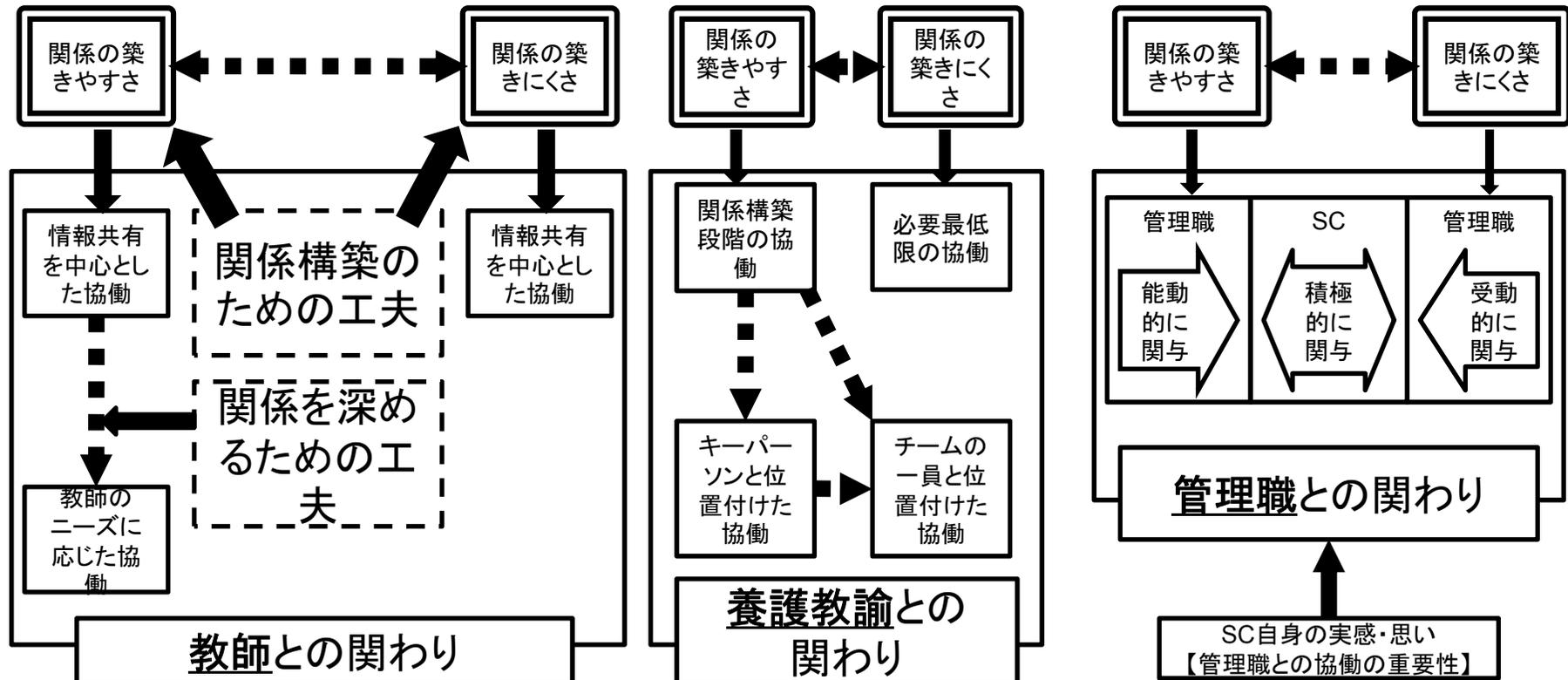
(1)関係の築きやすさ／築きにくさの 判断基準の比較



SCは、担任教師との関係の築きやすさ／築きにくさを判断するとき特に、特徴的な基準を用いている。

(2) SCの関わり方の比較

(2)SCの関わり方の比較



SCは、担任教師との協働関係を構築するとき特に、意識的によりよい協働関係が構築できるように工夫を凝らしている。

以上、

(1)判断基準および

(2)SCの関わり方の

2種類の比較から・・・

研究2から言えること

SCは、担任教師との協働関係において特に、特徴的な判断や工夫を行っている。

研究2: 考察

- では、なぜSCは、担任教師との協働関係において特に、特徴的な判断や工夫を行っているのだろうか？



理由①

担任教師の情報が非常に重要

- 小学校では、担任教師しか知りえない情報が非常に多く、子どもを理解する上で、担任教師との協働が、中学校以上に必要不可欠。

⇒それ故に、SCは、担任教師とのよりよい関係を構築するための様々な工夫を行っているものと考えられる。

理由②

チーム化されていない難しさ

- SCがチームの一員として加わる中学校に対して、小学校はSCと担任教師の1対1の関係が中心となるため、担任教師とSCの関係性がもたらす影響も、SCが担う責任も大きくなるものと考えられる。
- ⇒それ故に、SCは、教師とのよりよい協働関係の構築に特に力を入れて取り組んでいるものと考えられる。

5. 総合考察

総合考察

本研究の目的

今後配置が本格化すると予想される小学校における、教師とSCの望ましい協働のあり方を検討するための基礎資料を提供すること。

総合考察

研究1で得られた知見

小学校SCには、担任教師との関係作りの重視や面接室にとどまらない関わりが求められるために、中学校と同様、もしくはそれ以上に「教師との協働」が重要である。

総合考察

研究2で得られた知見

- ・・SCは、担任教師との協働関係において特に、特徴的な判断や工夫を行っている。

その背景には・・・

- ①担任教師の情報が非常に重要
- ②チーム化されていない難しさ

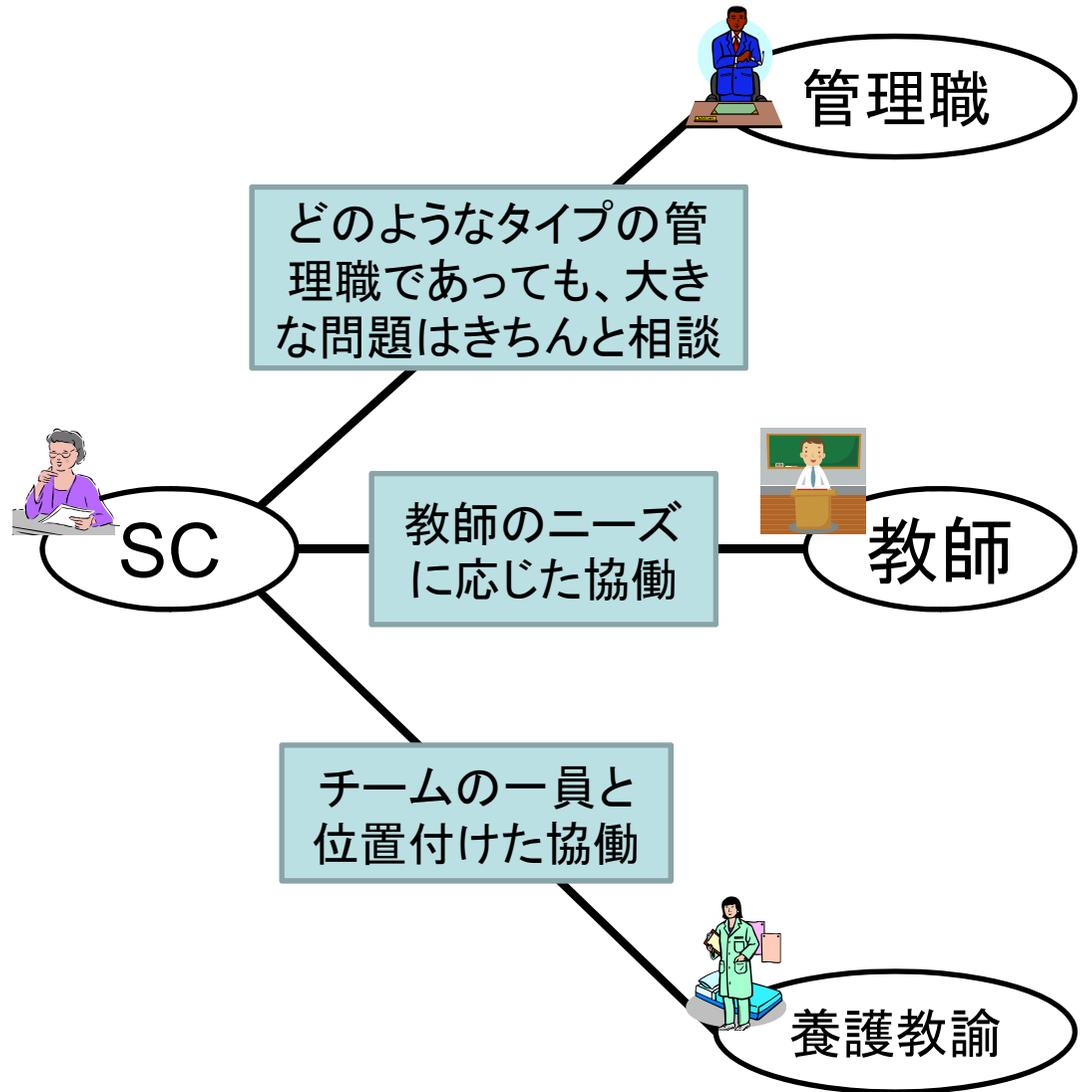
望ましい協働のあり方への示唆(1)

- ①担任教師にかかる責任と負担は相当に大きいものがある。
- ②チーム化されていないことが、この現状に拍車をかけている可能性がある。

→まずは担任教師がこれまで一人で抱えてきた不安や悩みを率直に打ち明けられる関係を構築するとともに、責任やリソースを少しでも共有できるシステムを構築していくことが必要。

望ましい協働のあり方への示唆(2)

- なお、本研究で得られた知見から、「責任やリソースを少しでも共有できるシステム」の一つのモデルは、右のようなものであると考えられた。



今後の課題

- 小学校におけるチーム作りの可能性に関するさらなる検討
- 教師の視点からの検討
- 子どもや保護者との関わりを含めた検討